

ベトナム・ハノイの行商とリサイクラーの生活に関する研究

山口 寛子

1 はじめに

ベトナムの首都ハノイでは多くの農村出身の労働者が、ハノイの食料品の流通および廃棄物のリサイクルを担っている。それは都市にとって、流通するものの入口と出口であり、ハノイにとって、彼らの労働は不可欠なものである。本研究は筆者がハノイで彼らの住まいを訪れた体験を通して、彼らの生活環境を描き、考察するものである。

2 研究の背景と目的

ベトナムでは1986年にドイモイ政策が取られて以来、国内での移動が自由化され、農村から都市への人口移動が加速化している。その原因として、市場経済化によりサービス部門や軽工業セクターといった未熟練労働者を吸収する部門が拡大したこと、及び社会の貨幣への依存が強まったことが指摘されている。また、経済の自由化によって、収入増へのインセンティブが国民の間、特に都市近郊の農村の住民で強まっていることも重要である(図1)。また、ベトナムは他国と違い、都市地域で生活にかかる費用が、農村地域とそれほど変わらず、そのことが都市流入者の増加の誘因となっている¹⁾。

一方、2008年にハノイでは観光地など一部路上での食料品の販売の禁止が決定し、行商を生業とする生活はより一層厳しい状況にある。それは交通渋滞の緩和と生ごみによる道路汚染の防止、また2010年のハノイ建都1000年事業に向けて、都市の美観のためである。

本稿ではハノイの行商とリサイクラーの、観察およびヒアリングから得た彼らの生活環境やライフスタイルの現状を記述し、生活実態を明らかにすることを目的とする。そのことにより、都市の中で立場の確保されていない移住労働者の都市における在り方が考えられる。

3 研究の方法

3-1. 調査対象地

ハノイには、ハノイ市内および近郊都市への食料品が集まるロンビエン市場がある。ロンビエン市場近くの行商とリサイクラーの住居、および紅川上のリサイクラーの住居を調査対象地とした(図2)。ロンビエ

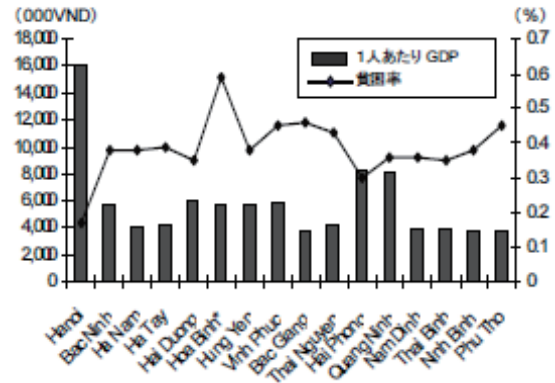


図1 ハノイ周辺省の1人あたりGDPと貧困率(2003年)

ン市場は、ハノイ市最大の食料品の市場である。

この地区はバスターミナルもある大きな道路で、旧市街のある市中心部とは隔てられている。ロンビエン市場は夕方6時ごろに閉まり、再び開く深夜1時までには静かであるが、日中は居住者や市場で働く労働者で活気がある。

3-2. 調査方法

本研究では、4エリアを抽出し、彼らの住まいと生活の観察(ビデオを含む)を行った。また、筆者が事前に用意した質問表をもとに、計7名に対して、ベトナム人の通訳により聞き取り調査を行った。行商の住まいのエリアは、中庭を持ち、集まって暮らす形式の支流沿いの住まいと、家として独立している形式のマーケット横の住まいである。リサイクラーの家は借家である大通り沿いの住まいとセルフビルディングのホン川上の水上住宅である。

3-3. 調査対象者の仕事

3-3-1. 行商の仕事

夜中にバイクやトラックで野菜やフルーツなどの食料がロンビエン市場へ運ばれ、荷物運び労働者を経て売り場へ行き、行商によってハノイ市内の各エリアに



図2 調査対象地 (Google map)

供給される。野菜や果物、肉や魚、それらを売り歩く行商の女性たちの天秤棒と菅笠の姿はハノイの名物になり、観光誌にも多く取り上げられている。2008年1月のベトナム政府の統計²⁾によると、ハノイでは5700人が野菜を売り、5900人が果物を売っている。平均年齢は40歳で、そのうちの93%の者が女性であり、75%がハノイ以外の出身である。30%から40%の者が常に物売りとして働き、他の者は時々他の仕事をしている。ハノイの旧市街には生鮮食品を扱う店はそう多くなく、また飲食店がとても多いため、歩くマーケットとして食料を供給している彼らの存在は街にとっても欠かせないものである。

3-3-2. リサイクラーの仕事

ハノイにおける廃棄物のインフォーマルなリサイクル活動には、1万人がくず拾いに従事しているとみられ、くず拾い、回収人、仲買人、リサイクル業者が関連している。先進国におけるリサイクルのシステムとは異なり、行政は関わらず、くず拾いを生業とする者はリサイクル産業の中で重要な位置を占めている³⁾。独立行政法人国際協力機構（JICA）はベトナムではリサイクラーが回収を行っていることを、民間ベースで一定の安定性を持っている、と評価している⁴⁾。

4. 行商とリサイクラーの生活

4-1. 支流沿いの住まい

支柱沿いの住まいでは、幾つかの住戸が中庭を共有していた。筆者が訪れた夕方4時は、中庭で仕事を終えた行商が洗濯や炊事、洗髪をしている姿が見られた。部屋は2.5m角程度であり、男性の住む3戸と、女性の住む7戸に全部で55人が暮らし、コの字型の中庭を持っていた。昼に眠る仕事のために、部屋の窓はふさがれ、人が中にいる家は戸を開けていた。かまどは交代で使っている。鉄製の荷車が家に立てかけてあった。

内部は居住者のベッドが大半を占め、自転車や果物を入れる発泡スチロールの箱が置かれていた。女性の住まいには身支度をする場所があった。壁にはリュックや袋がたくさんかけられていた。

各戸のごみは川に捨てられ、実際に住人が川にごみ



写真3 支流沿いの家の中庭



写真4 支流の様子



写真5 支流沿いの家



写真6 支流沿いの家の各戸

のに入ったビニール袋を投げているのを見た。筆者の訪れた12月は乾季であるために、ごみは川底にたまっていた。水はホースを経て使用可能だが、水道をひねるには電気が必要になるために各戸に水がめを持ち、一回にまとめて水を入れる。ベトナムでは水道水はどこも煮沸してからでないで飲めず、飲み水になるのではないために、電気代の節約を優先しているのだろう。トイレはなくビニール袋に取った排泄物を川に流す。そのため辺り一帯は汚物臭がした。シャワースペースとして戸のついた半畳ほどの小屋がある。隣の区画のシャワースペースは白い布が遮られただけのものだった。

ヒアリングした3名は、知り合いや親族の紹介でハノイに来たと話した。Ha Nam省から来た女性は3人目の子供の大学に行くお金を稼ぎに来たと話した。彼女の部屋は7人が1部屋で一緒に暮らし、そのうちの2人はレストランで働いているので交代で寝泊まりするようなものだという。また、オレンジ売りの女性はハノイに来て当初は、果物を売り買いする場所がわからなかったが今は慣れたと話した。路上販売の規制のある通りで、それを知らずに売ったため、幾度か警察から50,000ドンの罰金を科され、売っているフルーツすべてを没収されたことがあると話した。どこが禁止区域なのかは、よく知らないという。

4-2. マーケット横の住まい

ここに暮らす47歳の女性は、普段紙を集めるリサイクラーをしていて、時々果物を売っている。

部屋は2.5メートル各程度で1階の高さは1.8メートル程度、2階の空間は一軒の家に屋根裏を造ったような構造で高さが1メートル程である。1階には夫婦が住み、2階には夫婦の娘と親戚が住み、合わせて6人が暮らしていた。

玄関はシャッターを閉めて内側に布をかけて目隠し



写真1 旧市街の行商



写真2 旧市街のリサイクラー

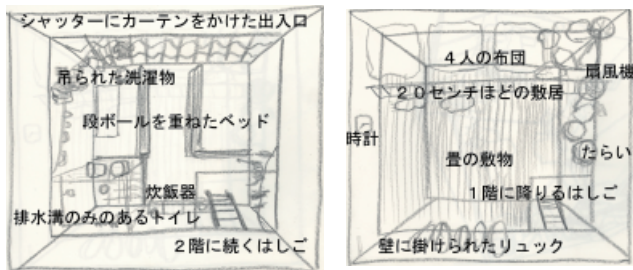


図3 マーケット横の住まい内部のスケッチ (左:1階 右:2階)
 をするようになっており、炊飯器があることから、電気が来ていることが分かった。カーテンで仕切られたトイレには便器はなく、排水溝とバケツが2つあった。水道は来ていないために水は外に汲みに行く。

行商をするときは、あまりよくないフルーツを貧しい家庭向けに売っていると聞いた。困っていることを聞くと、道に詳しくないため、迷うのが怖く、あまり遠くにものを売りにいけないという。通訳の友人が地図を見せて、これがあれば行きたいところに行けると伝えると、上に暮らす女性たちも下りてきて、4人でとても熱心に地図を見て友人の説明を聞いていた。ハノイに来て5年であり、仕入れの時などに同業者との関わりもあると考えられるが、道路の情報を共有するような機会はないようである。

4-3. 大通り沿いの住まい

リサイクラーである Nam Dinh 省出身の 50 歳の女性はロンビエン近くの 3 階建ての家の 2 階の、2メートル四方の部屋に夫と住んでいる。そこは中庭が取られていて、家の玄関が中庭に面するようであった。この部屋の室内は上履きで室内が広く使われていた。水道やトイレ、台所は他の階の住民と共有している。水は井戸からのもののためあまりきれいではないという。ハノイ市も井戸水が不衛生であることは問題であると調査⁵⁾の中で認識している。台所は1階の外部のスペースにあった。

夕方から夜 10 時ごろまでが仕事時間である。昼間は道が混んでいることと、昼間にごみが外に放られるためと考えられる。夫は壊れた電化製品の部品を解体

して、売る仕事をしている。故郷に 2 人の息子がおり、時々息子の 1 人が来て 3 人で生活することもある。農業よりもお金になるためにハノイで働いている。5 年前には彼女はフルーツを売る行商をしていた。年齢のために体力が落ちたため、リサイクラーに転向したのではないだろうか。表 1 より稼ぎは行商の方がいいことがわかるが、行商は深夜から働きださないといけないため、体力がいる仕事である。時々、家政婦として働くこともあるといい、一週間に 2, 3 時間働くことで 30,000 ドンのお金になる。

また、再度この場所を訪れたところ、他の部屋に住む人から彼女は 10 時半に戻る、と言われ、お互いの目が行き届いていると感じた。

4-4. ホン川上の水上住居

ホン川上に暮らす 76 歳と 75 歳の夫婦は夜間に紙や缶や瓶などリサイクルできるものを集めて生活を営むリサイクラーであり、ここに 10 年以上暮らす。この家は夫が作ったもので、まわりの 7 戸の水上住居も全て夫が建てた。家は水に浮かぶが固定されており、地上の杭と家がひもで結ばれ、いかだ状の船(写真 7 の女性が乗っている)に乗ってその紐を引くことで陸地と家を移動する。調査を行った 12 月は乾季で川の水が引いており、夫は砂の上に紙や缶や瓶の保管場所を作っていた。紙は 1 キロ 800 ドン、缶は 1 缶 200 ドンで売れ、概ね一晩に 15,000 ドン稼ぐという。

住居は、板やビニールシートで作られ、室内が台所と居間、寝室に分かれ、居間には祭壇もあった。居間と寝室では靴を脱ぐようになり、ござが敷かれていた。寝室には窓があり、外側から閉めて、日光を遮ることもできるようになっていた。祭壇の右手には夫婦ひとりひとりの写真と一緒に撮った写真が掲げられていた。そこからここが、ハノイにある仮の場所ではなく、替えのないただひとつの住まいであることがわかった。水はタンクを設置し、トイレは砂に板を建てた簡素なもので、他の水上住宅の住民と共同で使う。

表 1 ヒアリングした借家で暮らす行商とリサイクラーのプロフィール (概ね 200 ドン= 1 円 /2009. 11)

年齢	33	46	21	50	47
性別	女性	女性	男性	女性	女性
出身省	Hung Yen	Ha Nam	Bac Giang	Nam Dinh	Hung Yen
ハノイの在住年数	2年	1年	10日	17年	5年
住まいのエリア	支流沿い	支流沿い	支流沿い	大通り沿い	マーケット横
仕事	オレンジ売り	ロンビエンマーケットでの荷運び	ロンビエンから異なるマーケットへ荷運び	リサイクラー	リサイクラーとフルーツ売り
目的	送金	養育費	両親に送金	子供の教育費	子供の教育費
滞省の頻度	月に2回	月に1回	来たばかり	週に1回	月に1回
一日の収入	0-100,000ドン	150,000ドン	150,000ドン	50,000ドン	25,000ドン
1部屋の家賃/月	650,000ドン	700,000ドン	500,000ドン	300,000ドン	1,800,000ドン
同室人数	4人	7人	4人	2人	6人
同室人数との関係	同じ出身省	同じ出身省	親族	夫婦	夫婦と娘

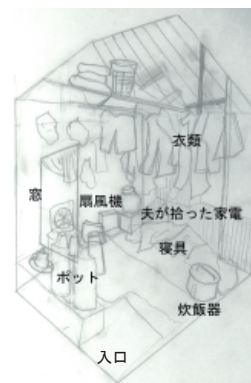


図4 大通り沿いの住まい内部のスケッチ

表2 ヒアリングした水上生活者のリサイクラーのプロフィール

年齢	76	75
性別	男性	女性
出身省	Thanh Hoa	Thai Binh
ハノイの在住年数	40年	20年
住まいのエリア	ホン川上	ホン川上
仕事	リサイクラー	リサイクラー
目的	医療費	医療費
帰省の頻度	帰らない	帰らない
一日の収入	15,000ドン	5,000ドン
1部屋の家賃/月	0ドン	0ドン
同室人数	2人	2人
同室人数との関係	夫婦	夫婦



写真7 水上住居の様子

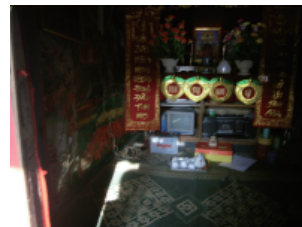


写真8 水上住居の居間



写真9 水上住居の台所



写真10 水上住居の寝室

二人ともお金は生活費と医療費に使い、病院にはお金ができたらく行くそうである。ドイモイ政策の採用と共に、国立病院も医療費は有料となっている。女性は、果物を売するような仕事は足が弱いことや、計算があまりできないためにしない、と言っていた。リサイクルの仕事は、元手がいらす、また行商の仕事ほど体力がいらす、時間の制約もなく自分のペースで働けるためにしていると考えられる。

5. 総合考察

5-1. 現状

個々の家の観察とヒアリングから、それぞれの暮らしぶりがうかがえた。今回、調査を行った行商やリサイクラーの生活は、個人の住まいの中だけでは生活行為が完結せず、水場やかまど、またトイレといったものを他の人々と共有することで、生活が営まれている。そのことにより、他者との関係性の中で生活がまわっているといえる。共有しているものは生活には欠かすことのできないものであり、強いコミュニティを築いているといえる。また、共に生活することによって安心感があるなど、物質的な面だけではなく、生活の中で助け合っ暮らしているといえる。

5-2. ハノイ市の方向性

ハノイ市総合都市開発計画調査(2007)⁵⁾によると、ホン川提外地は延長40kmに渡り、法的に権利を持たない者も合わせて160万人が住む。災害時の避難の問題、ごみや水の衛生面の問題、市から隔離され、住宅が貧困であること、ホン川を臨む景観に問題があるとされ、再開発の方法が模索されている。建築物のうちの60%が移転、又は物理的・制度的に対応が求められる違法建築であるとされている。

ハノイ市がこのエリアの再開発を進めるにあたって、行商やリサイクラーに安全で清潔な住環境を提供し、その上で景観の問題に取り組むのが市としてある

べき姿勢ではないだろうか。ハノイ市は行商やリサイクラーの労働なしには食料がまわらず、またごみの資源回収もできないと考えられる。住環境の整備に関して、移住労働者にとって、水道やトイレを整備することは負担が大きく、個人では無理のあることである。

5-3. 環境改善と情報共有の可能性

住環境を提供する過程で今回の観察から得られた、行商やリサイクラーの生活で見られた関係性を利用し、環境改善や道などの情報共有が行われれば、ハノイの中で行商やリサイクラーが、よりよい在り方を築くことができるのではないだろうか。他国のインフォーマルセクターの住む地域に下水道を整備した事例では、施工を居住者が仕事として行った例もあり、この地域でも、居住者の協力により可能ではないかと考えられる。ごみの処理に関しては、市は廃棄物が河川敷に堆積しているのを問題視しており、市が他のエリアと同じように、ごみを回収するか、居住者のコミュニティが有効に働くことで、河川の汚染を防止できる可能性がある。また路上販売が禁止された道路の情報が、行商に行き渡っていないことは市と行商にとって不便なことであり、道の情報と共に、行商の持っている関係性を生かすことにより、共有することができると考えられる。

[参考文献]

- 1) UNFPA: Assessment on urban migration policy, p.45, 2005
- 2) Vietnamet, 2008. 1. 25, URL, <http://vietnamet.vn/xahoi/2008/01/766032/>
- 3) Ngo, Dao: Waste and informal recycling activities in Hanoi, Vietnam, Third World Planning Review, 23(4), pp. 405-429, 2001
- 4) 独立行政法人国際協力機構: アジアにおける資源循環型社会の構築に向けた技術協力のあり方 最終報告書, pp134-168, 2006. 5
- 5) 独立行政法人国際協力機構, ハノイ市人民委員会: ベトナム国ハノイ市総合都市開発計画調査, 2007. 3

謝辞

本研究は、大学院G Pによる海外インターンシッププログラムにより国連ハビタット福岡事務所およびベトナム事務所に派遣していただき、調査の機会を得て、実現したものです。ハノイでは急な申し出にも関わらず、行商やリサイクラーの方に応じただけきました。また現地の調査にあたっては、通訳など多くのベトナムの友人に協力いただきました。多くの方のご協力とご指導の下に、研究させていただけたことに感謝の意を表します、ありがとうございました。